

## 3 東部地区

## 30 氷川町会

### 歴代会長

初代 中田 宮夫      二代 小林 一郎      三代 高山 辰雄      四代 中田 宮夫

### 役員(三役・部長)

会 長	中田 昌之	庶務監査	中村 恵子	永長 由美子
副会長	蒲原 陽一郎	防火部長	鈴木 園子	伊東 寿代
副会長	根岸 薫	防犯部長	岩崎 桂子	歌橋 陽子
理 事	岩間 陽一	交通部長	大瀧 朋子	宮本 麻美
会 計	丸山 紀子	育成部長	井上 由美	大西 晃輝

### 町の変遷と町会の沿革

氷川町は昭和 6 年（1931 年）に制定。町の成立以前は中野町「原」「桐ヶ谷」等と呼ばれていました。町名は地区に氷川神社があることから「氷川町」となりました。

隣接する J R 東中野駅は明治 39 年（1906 年）甲武鉄道「柏木駅」として開業し、大正 6 年（1917 年）1 月 1 日「東中野駅」に改称し現在にいたります。氷川町は昭和 20 年（1945 年）4 月の東京大空襲で氷川神社の一角を除きほとんど焼失してしまいました。戦後、氷川神社の宮司であった中田宮夫氏（当時）を中心に昭和 23 年（1948 年）4 月に町会として設立し、自治活動が始まりました。しかし、発足当時は住民も少なく組織活動も大変に苦労されたようです。

昭和 30 年代に入り、戦前より住んでいた住民が戻り、新たに居を構えた人も増え、山手通り、名店会通りに商店会が結成され町の活気が出てきました。お盆や歳末の大売り出し、氷川神社の祭礼も大いに賑わいました。氷川神社裏手の住宅街は、空襲を免れたことで閑静な町並みが残り、地区住民の努力により高い建物が建てられない「建築協定区域」を設定し、今でも落ち着いた環境が守られています。

平成 27 年（2015 年）3 月 1 日東中野駅西口広場の開設式典が盛大に執り行われました。昭和 32 年（1957 年）に都市計画が決定され、平成 9 年（1997 年）に中野区が事業主となり山手通りの整備と併せて約 18 年の歳月をかけ完成しました。J R 東中野駅西口には都営大江戸線との連絡口があり、広場にはタクシー乗り場、路線バスの停留所も設置され交通の利便性・安全性が向上し、地域のイベントや祭礼などで地域活性化の拠点として利用が進んでいます。

しかし、山手通りの大規模な拡幅工事で多くの商店が立ち退きや廃業をしました。また名店会通りも大型スーパーやコンビニエンスストアの出店、後継者不足等で、旧来の商店が減り、町全体が寂しくなり憂慮しているところ。広がった山手通りには高層ビルやマンションが建てられ、人の流れも変わりました。商店が閉じて新築のマンションに住民が入り、昔のような近所の親密度が失われつつあることも悩みのタネです。

町会で力を入れている活動は、防火・防犯活動、防災訓練、交通安全、募金活動、高齢者の見守り、氷川神社のお祭り等の基本的な活動と、ご近所の方々がもっと顔見知りになれる事を目標に、子ども会・老人会の支援を積極的に行っています。子ども会では夏休みのラジオ体操やスイカ割り大会、映画会、ボーリング大会等。氷川芙蓉会（老人会）ではコーラスや旅行などのお楽しみ企画もあって毎回参加者も増えてきています。町内には高層のマンションが増え、現在は約 2,300 世帯が暮らしていますが、そのような環境の変化に対応しながら、地道な活動の継続が町会への理解を深めていく近道と思っています。

